

評価年月日 平成 28 年 8 月 30 日  
研究所名 畜産センター

[事前評価]

課題名 採卵鶏の生産性向上のための低タンパク質飼料給与法の研究 (平成 29～32 年度)

【課題の概要】

飼料中のタンパク質水準を調整した飼料給与が産卵成績に及ぼす影響について検討し、産卵ステージごとの飼料中タンパク質水準を明らかにする。また、飼料へのフィターゼ添加により夏季や産卵後期の卵質改善効果について検証を行うとともに、併せて暑熱期での生産性への影響を調査し、採卵鶏の生産性が低下した場合の対処方法を検証・確立する。

【評価結果】 (評価委員数 4 名)

○各項目の評価 (各評価委員の平均点)

研究の必要性・重要性	期待される成果・貢献	既往研究等との関連性	創造性・独創性	研究目標の妥当性	研究方法の妥当性	合計点
4.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	24.8

○総合評価 A：採択

(A：採択 B：計画を見直し採択 C：不採択)

【委員の意見助言と対応策】

評価項目	意見・助言	対応策
研究の必要性・重要性	・低タンパク飼料やフィターゼ添加は一部行われているが、精密な低タンパク質飼料のニーズは高い。	—
期待される成果・貢献	・精密な管理を行う手間とコストが見合えば養鶏産業の発展に寄与できる。	—
既往研究等との関連性	・既報を網羅的に検証し、何が足りないかを明瞭にして取り組むべき。	・学術論文を含め、既報を再度検証し、試験に取り組む。
創造性・独創性	・低タンパクとフィターゼの組合せについて、独創性が明確でないが、暑熱ストレス対策の研究手法は新しい。	・コスト削減と産卵率等の生産性の維持・安定の両方を満たすために、飼料へのフィターゼや抗酸化物質の添加についても積極的に調査する。
研究目標の妥当性	・産卵ステージ毎の飼料中タンパク質含量を明確にすることを目的としているため、研究目標は明確であるが、暑熱と産卵ステージとの組合せは現状に合わせるべき。	・季節と産卵ステージを混同しないように、試験設計をたて、実施していく予定である。
研究方法の妥当性	・飼料メーカーや農研機構との連携により適切に実施することが可能と考えられるが、鶏の年齢や季節のファクターが大きいので、供試鶏の選択と試験設計が重要。	・現在の飼養形態では、産卵期が冬～秋での450日齢(産卵中期)でアウトする飼養である。産卵後期や暑熱期の試験実施に向けて、飼養期間の延長や変更も検討する。
総合評価	・総タンパクだけでなく、アミノ酸組成にも踏み込むべきで、低タンパク質飼料にすることより、卵の栄養価・安全性で問題ないか考慮すべき。	・アミノ酸の充足率は満たした上で飼料中のタンパク含量は減少させる予定としている。卵の栄養価・安全性については、調査可能か検討する。